



# Red Hat 3scale API Management 2.9

## オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.9 向けリリースノート

Red Hat 3scale API Management 2.9 向けドキュメント



# Red Hat 3scale API Management 2.9 オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.9 向けリリースノート

---

Red Hat 3scale API Management 2.9 向けドキュメント

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

## 法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release\_Notes\_for\_Red\_Hat\_3scale\_API\_Management\_2.9\_On-premises.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本書では、Red Hat 3scale API Management 2.9 で解決された問題、関連ドキュメント、および既知の問題に加えて、最新のテクノロジープレビュー機能について説明します。

## 目次

|   |   |
|---|---|
| 前書き .....   | 3 |
| 第1章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.9.1 - パッチリリース ..... | 4 |
| 1.1. 新たな機能  | 4 |
| 1.2. 解決した問題   | 4 |
| 1.3. 既知の問題  | 4 |
| 1.4. ドキュメント   | 4 |
| 1.5. 3SCALE の変更点  | 5 |
| 1.5.1. Oracle データベースのサポート                               | 5 |
| 第2章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.9 .....             | 6 |
| 2.1. 新たな機能  | 6 |
| 2.1.1. 主要な機能  | 6 |
| 2.1.2. その他の機能   | 6 |
| 2.2. テクノロジープレビューの機能                                     | 7 |
| 2.3. 解決された問題  | 7 |
| 2.4. 既知の問題  | 8 |
| 2.5. ドキュメント   | 8 |
| 2.6. 3SCALE の変更点  | 9 |
| 2.6.1. 今後の変更  | 9 |



---

## 前書き

本書は、Red Hat 3scale API Management 2.9 および関連のパッチリリース向けのドキュメントです。

# 第1章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.9.1 - パッチリリース

本項は、オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.9.1 向けドキュメントです。

## 1.1. 新たな機能

- OpenShift 3.11 とテンプレートベースの 3scale デプロイメントの組み合わせにおいて、Oracle Database 19c がサポートされるようになりました ([JIRA #3647](#))。
  - Oracle Database のサポートに関する詳細は、「[3scale の変更点](#)」を参照してください。

## 1.2. 解決した問題

- サービスディスカバリーに **サービスアカウント** 認証オプションを使用する場合、インポートされた API が管理ポータルにすべて表示されるようになりました ([JIRA #5089](#))。
- OpenAPI Specification (OAS) 3.0 の **オートコンプリート** 機能が、フォーマットにかかわらず正しく動作するようになりました ([JIRA #5516](#))。
- APIcast 経由でトランザクションを追跡する際にリクエスト URI が含まれるようになりました ([JIRA #5669](#))。
- テナントを一時停止した後に、**Suspend** ボタンが表示されなくなりました ([JIRA #5738](#))。
- Batcher ポリシーと組み合わせた場合、backend-listener がダウンした場合に Auth Caching ポリシー (Allow モード) が新しいリクエストを承認するようになりました ([JIRA #5753](#))。

## 1.3. 既知の問題

- OpenShift 4 では、APIcast へのカスタムポリシーの追加に失敗します ([JIRA #5515](#))。この問題を回避するには、ご自分の APIcast 設定に最も適したソリューションを参照してください。
  - カスタムポリシーと共に Embedded APIcast イメージの再ビルドを試みる際に、イメージのプルに失敗する
  - カスタムポリシーと共に Self-managed APIcast イメージの再ビルドを試みる際に、イメージのプルに失敗する
  - Self-managed APIcast イメージを再ビルドした後に、3scale 管理ポータルでカスタムポリシーが表示されない
- デベロッパーポータルで、OAS3 のオートコンプリート機能が動作しません ([JIRA #6088](#))。

## 1.4. ドキュメント

### サポートされる設定

- アーティクル [Red Hat 3scale API Management Supported Configurations](#) で、3scale 2.9.1 のサポート対象設定に関する最新情報を確認してください。

### インストールガイド



- [3scale のインストール](#) で、3scale のインストールおよび設定手順を確認してください。
- Oracle Database を使用してテンプレートベースの 3scale インストール環境を設定する場合は、サポートされる Oracle Database バージョンの詳細について「[3scale の変更点](#)」セクションを参照すると共に、以下のドキュメントを確認してください。
  - [Oracle Database を使用した 3scale システムイメージの設定](#)

## アップグレードガイド

- 以下のデプロイメントについて、3scale インストール環境を 2.8 から 2.9.1 にアップグレードする手順を確認してください。
  - [テンプレート](#) ベース
  - [operator](#) ベース
- テンプレートベースの 3scale インストール環境が Oracle Database と共に動作している場合、サポートされる Oracle Database バージョンについての詳細は、[Oracle データベースのサポート](#) セクションを参照してください。

## 1.5. 3SCALE の変更点

本セクションでは、3scale 2.9.1 の変更を列記します。

### 1.5.1. Oracle データベースのサポート

OpenShift 3.11 とテンプレートベースの Red Hat 3scale API Management デプロイメントの組み合わせにおける Oracle Database サポートの詳細を以下に示します。

- 3scale 2.9.1 は、Oracle 12c と 19c の両方をサポートします。
- Oracle 12c を維持したまま、3scale インストール環境を 2.9 から 2.9.1 にアップグレードすることができます。
- 3scale 2.10 では、Oracle 12c に対するサポートが Oracle 19c に置き換えられる予定です。Oracle DB と共に 3scale を使用している場合は、データベースのバージョンを Oracle 19c にアップグレードすることを検討してください。この設定により、お使いの 3scale インストール環境がサポート対象の設定となります。

## 第2章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.9

本項は、オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.9 向けドキュメントです。

### 2.1. 新たな機能

#### 2.1.1. 主要な機能

- 新たな APIcast ポリシーが追加されました。
  - Upstream Mutual TLS: 設定で指定した証明書に基づいて、APIcast とアップストリーム API との間で相互 TLS 接続を確立することができます ([JIRA #672](#))。詳細は、API ゲートウェイの管理の [Upstream Mutual TLS](#) を参照してください。
  - Custom Metrics: **post** アクションに新しいメトリクスを追加することができます。これにより、ユーザーはメトリクスアップストリームヘッダー、ステータスコード、またはその他の関連情報を報告することができます ([JIRA #5098](#))。詳細は、API ゲートウェイの管理の [Custom metrics](#) を参照してください。
- 3scale APIcast ゲートウェイのコンテンツキャッシュ設定により、**Expires** および **Cache-Control** ヘッダーを設定することができます ([JIRA #487](#))。詳細は、API ゲートウェイの管理の [APICAST\\_CACHE\\_MAX\\_TIME](#) および [APICAST\\_CACHE\\_STATUS\\_CODES](#) を参照してください。
- OpenAPI Specification (OAS) 3.0 とのより高度な連携のために、ActiveDocs 機能が拡張されました ([JIRA #4212](#))。詳細は、デベロッパーポータルでの API の提供の [OAS の設定](#) を参照してください。
- 一般のインターネットにアクセスせずにオンプレミス型 3scale の操作を行うことができるようになりました ([JIRA #4006](#))。詳細は、3scale のインストールの [OLM を使用した 3scale operator のインストールと設定](#) を参照してください。
- 請求用の通貨のリストを設定するオプションが追加されました ([JIRA #3076](#))。詳細は、管理ポータルガイドの [通貨用 YAML の設定](#) を参照してください。
- バックエンド API の使用状況の統計値に関する解析データのページが追加されました ([JIRA #3159](#))。詳細は、管理ポータルガイドの [バックエンドに関する解析の確認](#) を参照してください。

#### 2.1.2. その他の機能

- HTTP 流量制御ヘッダーに関する RFC の最新ドラフトがサポートされるようになりました ([JIRA #3795](#))。
- HTTP メソッドに基づいて URL Rewriting ポリシールールを設定できるようになりました ([JIRA #5259](#))。
- 管理 API のアクションに基づいて Webhook がトリガーされるようになりました ([JIRA #4703](#))。
- メトリクスまたはアプリケーションプランの課金ルールを削除する API エンドポイントが追加されました ([JIRA #4771](#))。
- 指定した環境の最新プロキシ設定から取得したすべてのサービスをエクスポートする 3scale toolbox コマンドが追加されました ([JIRA #669](#))。

- 一貫性を確保すると共に曖昧さを排除するために、3scale toolbox のエラーの報告に標準化された手法が使用されるようになりました ([JIRA #2349](#))。
- 3scale toolbox のアプリケーションプラン **import** コマンドが改善されました ([JIRA #3874](#))。
- すべての **PersistentVolumeClaim** で、カスタムストレージクラスを設定できるようになりました ([JIRA #4651](#))。
- APICast の Prometheus メトリクス: **status** および **content\_caching** ([JIRA #5417](#) および [JIRA #5439](#))。

## 2.2. テクノロジープレビューの機能

- 高可用性 (HA) OpenShift テンプレートおよび評価用 (Eval) OpenShift テンプレート [JIRA #1168](#)。
- 3scale operator の機能: カスタムリソースを使用して 3scale テナント、API、プラン、制限、メトリクス等を定義し、それらを 3scale インストール環境に設定することができます ([JIRA #1798](#))。
- 3scale operator を使用して、Prometheus および Grafana によりリソースをモニタリングすることができます ([JIRA #4639](#) および [JIRA #4641](#))。
- 3scale Pod のメータリングラベルにより、メータリング operator から事前に定義されたレポートを取得し使用状況のデータを確認することができます ([JIRA #5765](#))。
- 3scale operator を使用したバックアップおよび復元機能が利用可能です ([JIRA #4746](#))。

## 2.3. 解決された問題

- トライアル期間に負の値が設定されるのを防ぐための検証が追加されました ([JIRA #1758](#))。
- Zync は 公開ベース URL の HTTP スキームおよびポート番号を参照するようになりました ([JIRA #3545](#))。
- SSO Integrations が垂直ナビゲーションで強調表示されるようになりました ([JIRA #3548](#))。
- バックエンドまたはプロダクトが多い場合のパフォーマンスが改善されました ([JIRA #3592](#))。
- バックエンドを持たないプロダクトのプロキシ設定が生成されるのを防ぐための検証が追加されました ([JIRA #3626](#))。
- フォワードプロキシを使用して APIcast が大量のボディーの呼び出しを行う場合のパフォーマンスが改善されました ([JIRA #3863](#))。
- HTTP\_PROXY が設定されている場合に、ホストヘッダーが設定されるようになりました ([JIRA #4178](#))。
- OpenID Connect 認証方法を使用する場合に、**Example curl for testing** が表示されなくなりました ([JIRA #4384](#))。
- メンバーロールの管理ユーザーがバックエンドの使用状況にアクセスできるようになりました ([JIRA #4489](#))。
- プロキシドメインに制限以上の文字を入力した場合のエラーメッセージが正確になりました ([JIRA #4658](#))。

- パスベースのルーティングが引数と一致するようになりました ([JIRA #5149](#))。
- IP Check ポリシーによりポートが削除されるようになりました ([JIRA #5258](#))。

## 2.4. 既知の問題

- ProxyRule が末尾のスラッシュを削除します ([JIRA #3872](#))。
- YAML ファイルで定義されるマッピングルールの位置が無視されます ([JIRA #5747](#))。
- 一部のパッケージに誤ったメタデータが存在します ([JIRA #5682](#))。
- **3scale 2.9.1 で解決済み:** テナントがすでに一時停止されている時に **Suspend** ボタンが表示されます ([JIRA #5738](#))。
- **3scale 2.9.1 で解決済み:** サービスディスカバリーに **サービスアカウント** 認証オプションを使用する場合、インポートされた API が管理ポータルに表示されません ([JIRA #5089](#))。この問題を回避するには、以下のオプションがあります。
  - 最終的な APIcast の URL に 63 文字を超えるラベルが含まれないように、OpenShift のプロジェクトまたはサービスの名前を変更する。
  - 長い URL ラベルが設定されるリスクを低減するために、**sandbox\_proxy.yml** で URL テンプレートを変更する。

## 2.5. ドキュメント

### サポートされる設定

- アーティクル [Red Hat 3scale API Management Supported Configurations](#) で、3scale 2.9 のサポート対象設定に関する最新情報を確認してください。

### セキュリティー更新

- [Red Hat セキュリティーアドバイザリー](#) ポータルで、3scale 2.9 のセキュリティー更新に関する最新情報を確認してください。

### アップグレードガイド

- テンプレートベースの 3scale インストール環境が Oracle Database と共に動作している場合、サポートされる Oracle Database バージョンについての詳細は、「[今後の変更](#)」セクションを参照してください。
- 以下のデプロイメントについて、3scale インストール環境を 2.8 から 2.9 にアップグレードする手順を確認してください。
  - [テンプレート](#) ベース
  - [operator](#) ベース
- 開発者ポータルで API をプロビジョニングするためのアップグレード後の手順が追加されました。詳細は、[3scale の移行](#) ガイドの [はじめに](#) を参照してください。

### ドキュメントに関して解決された問題

- [operator](#) を使用して [Self-managed APIcast をデプロイする](#) 手順がカスタマーポータルで利用できるようになりました ([JIRA #4094](#))。

## 2.6. 3SCALE の変更点

本セクションでは、3scale 2.9 の今後の変更を列記します。

### 2.6.1. 今後の変更

- 3scale 2.9.1 では、Oracle 12c に対するサポートが Oracle 19c に置き換えられる予定です。Oracle DB と共に 3scale を使用している場合は、2.9.1 がリリースされるまで 3scale 2.8 を維持し、その後データベースのバージョンを Oracle 19c にアップグレードします。この設定により、お使いの 3scale インストール環境がサポート対象の設定となります。



#### 重要

3scale 2.9.1 では、Oracle 12c のサポートに関する通知に変更が加えられています。詳細は、2.9.1 リリースノートの [Oracle Database のサポート](#) を参照してください。

- 現在、Proxy Update を使用すると、ステージング環境用に、設定が更新された新たな APIcast 設定バージョンが作成されます。ただし、今後のリリースでは、これが変更されます。ユーザーは、この目的のために新たな Proxy Config Promote エンドポイントを使用する必要があります。
- Redis 3.2 に対するサポートは、今後のバージョンで削除される予定です。